Instagram　@kazenokao
http://kazenokao.net/

風の顔通信

2025.2.17

荒尾第一幼稚園
〒864-0031荒尾市川登1823番地15
TEL68-0175

もも組映画館!!

藤原汀紗

　今のさくら組さんがもも組の時に頑張っていた『わんぱくだんのロボットランド』の映画のイメージが、当時ひよこ組だった今のもも組さんたちにはとても強く印象に残っているようでした。「もも組になってみんなでやってみたいことある？」という話をしている時には、1学期からずっと、「みんなで恐竜の映画したい」と話していました。今まで何度か撮影しようと試みたことはありましたが、自分たちの思うようにはいかず、撮影に入る前に中断‥ということもありました。それでも運動会の終わった後にも「いつ映画する？」と楽しみにしている様子はあり、「ここの場面撮影するの難しいよね」と保育者が投げかけると「それだったらこうしたら？」とだんだん実現できそうなアイディアが出てくるようになりました。ごっこランドが終わった頃にはみんなの中でもやる気が一番出ている時で、3学期になったら映画頑張ろう!!と意気込んで冬休みを迎えました。宣言通り、1月は驚くほど恐竜を作るペースも早く一気に恐竜を完成させていき、撮影を迎えました。今年の映画は、去年の映画よりもたくさん場面転換をしなくてはいけないシーンがあるため、何日にも分けて撮影する計画にしました。最初は恥ずかしさの方が強かったりよく分からないような感じでしたが、撮影が終わるたびに動画を繋げていきその都度見せていたので、子どもたちもだんだん気持ちが乗ってきたようでした。撮影を重ねるごとに演技っぽい表現も増えてきたり、1発で撮り終えるようになってきたので、自信にもなっていたようです。保育参観当日、保護者の方々の笑顔と感想をたくさんもらって、子どもたちも達成感を味わえたと思います。いわゆる「出来栄え」だけで見てもいいものが撮れたとは思いますが、その過程にはこの1年間の子どもたちの思いがかなり詰まっているので、それを受け取っていただけたら嬉しいです!!

緑の色を研究中。黒っぽい緑を作っているところ

赤ちゃん恐竜製作。２人で体と頭を分担する

みんなで
作った方がいい!!

ステゴサウルスの尻尾の部品。細いのがポイント

ステゴサウルスの部品。緑の色を工夫中

さくら組さんに張子の方法を教えてもらう

マイアサウラの色を塗る。茶色にもいろんな色がある

体を組み立てる

張子の方法で恐竜の卵作り

恐竜の映画作りを本格的に考え始めた子どもたち。
カレンダーを見て、自分たちが完成させたい日を考えたり
去年のもも組さんの作った映画をもう一度見たりすると一気に実感が湧き、やる気を入れ直してまだ完成していない恐竜作りに取り掛かりました。
映画をやりたいけど難しそう…というイメージが強く
なかなか進んでいかなかった部分もありましたが、
映画を見直すことで「今なら自分たちにもできるかも!!」という自信を持てたような感じでした。
子どもたちの頭の中になんとなくあった、
こうすればうまくいきそう、こうしたいというイメージも
友達や保育者に伝えることでより具体的になったり形になったりしています。
「１人でしたら大変だけどみんなで作ったらできるからみんなで作った方がいい」と
いうのも最近のもも組ではよく話していて、過去に感じた経験などから協力することの
必要性も感じているようです。
映画ができるのも楽しみですが、
その過程もとても面白いです!!

もも組（年中）　1/14~1/15

遊びを生みだす力

宇梶二美

　子ども達の遊びの世界は、とてもおもしろい。大人には考えつかないことを思いつく。
久しぶりにさくら組の部屋にいる時間。紐で回す駒の環境があったので、回せるようになったのか?と聞いてみた。「できるよ」と数人の男の子がやってみせてくれることに。本当に上手に回せるようになっていて驚いた。みていると、駒がいい感じで回っているところに、あやとりの毛糸を下にたらし近づけている。駒を回している子は、何も言わない。邪魔をされているのに、なぜ?駒の綱渡りでもやろうとしているのだろうか?などと思いながら、何しているのかきいてみた。すると「魚釣りだよ」と教えてくれた。駒の上に自分達で作ったいろんな形の真ん中に穴の空いた厚紙をのせて、それを垂らした毛糸に瞬間移動をさせるという。それを「魚釣り」という表現で楽しんでいる様子だった。駒回しの世界でも、様々な試しや発見があるようで、長時間遊ぶことができる子ども達で尊敬する。
　いよいよ、さくら組は雛飾りの製作の時期にはいった。毎年やっているけれども、始まる前には、先生がしっかり考えた流れや環境を整えてスタートの日を迎える。今年度の改良点の一つ、立体製作の材料を雛人形出し、観察する時間と同時に並べておくことであった。普段あまり見かけない物もあり、なんとなく手に取ってみたりしている子ども達。それぞれに、自分が作りたいと思っている物が心に決まっているようで、それに合う材料をすでに吟味している様子も感じられた。そんな中で、ぼんぼりに合う材料を見つけた子ども達数人が集まっている。しばらく見ていると、いくつかの材料と懐中電灯を組み立ててはあーだこうだと考えを出しあっている。そして、ついに材料に穴が開けられ、より具体的な形に出来上がっていく様子があった。次の日、雛飾り立体製作前の平面製作の時間。ほぼ、完成に近づいた頃、また昨日の子どもたちが何やらしている。みると、昨日組み立てていたぼんぼりが二つになっていて、床の上に並べられ、周りでドタバタドタバタやっているのである。
　見事に立っているぼんぼりの立つ強さというのか、どのくらいの刺激に耐えられるかを試していたのである。一人の足でドタバタ、二人の足でドタバタ、数人の足でドタバタ、次は、フーッと息を吐いて、風には強いのか?　等、試している姿は、素晴らしい。この時間も、自由な遊びの延長線上にあるように感じる。日頃、自分達がやりたい夢中になる遊びの中で培われたものがここにも活かされ、与えられた課題にも、主体的に楽しくやる姿を感じて嬉しい。
　平面製作での雛飾りのお絵描きでは、みんな真剣に向き合っていた。相当疲弊していた。今の時期、お茶を飲むことは少ないはずなのに、お絵描き中に、何度水筒を手にしたことだろう。運動疲れではなくとも人は疲れると喉が渇くんだなあと、初めて知った。
きっと、疲れた時は、ティータイム♪でリラックスすることを自ずと欲するものなんだなと思った。

畑日記
今、畑はジャガイモ畑になるために、寒さの中、休眠中。元気になりますように!!

みんなで作ろう！　～海賊船・椅子・消防車作り　年少の協同製作の姿～

松川夏海

　子ども達は1学期から3学期にかけて、海賊船や椅子・消防車などみんなで使うものを作ってきました。海賊船では、ごっこ遊びをしながら必要だと感じたものを1人の子どもが作っていくと、その姿を見て「やりたい！」と数人の子どもたちも集まり作っていました。また、ガムテープを自分で切れることが子どもたちにとっての憧れで、何日もできるまで挑戦していました。海賊船作りでは、自分からやってみようとしたり、できるようになった喜びを味わったり、誰かと一緒に過ごす・作る楽しさを味わう場になっていたように感じます。
　海賊船2号では、前作った海賊船作りの経験をもとに子どもたちだけで作り進めていたり、「海賊船に椅子があったらいい！」とある子の発言で、その思いがみんなに広がり、『壊れない椅子作り』が始まりました。そこでは、子どもたちが様々な環境に関わり触れたり作ったりする経験から、「～したらどう？」とアイディアが飛び交っていました。色々なアイディアが出る中、「それいいじゃん！」というみんなの思いが一つになる瞬間があり、そのアイディアを『～作戦！』と言葉にし、みんなで作ったりできた喜びを味わっているようでした。
　消防車作りでは、本物のように作りたい意識が少し子どもたちにあり、一つしかないパーツが多いので、海賊船作りのようにみんなで取り掛かれなかったり、色々なアイディアを一つにすることが必要となってきました。すると、自分がやりたい気持ちを抑え「これやっておくね！」と自分には何ができるのか考える姿が見られてきています。もちろん、自分がやりたい！という気持ちもあったり、これを作りたいけど、どうすればいいかわからないこともあり、思うように作り進められない時間もありますが、作った場所でごっこ遊びをする時間が「みんなと一緒だと楽しい！」「もっとこうしたい！」と作る意欲につながっているようです。今後、どのような姿が見られていくのか楽しみに関わっていきたいです。

ひよこ組の缶蹴り

宇梶達也

　幼稚園の子どもたちにとって、缶蹴りはとても難しい遊びだ。前を気にしながら後ろを気にするということが特に幼児期の子どもたちには難しい。年長組の後半になって、成り立つかどうかという遊び。と、思っていたが、今年はひよこ組が缶蹴りをやり始めた。「缶蹴りごっこ」ではなく缶蹴りになっている。
　缶蹴りをしている時の体の動きを見ていると、隅々まで神経がゆきとどいているように感じる。次の動きの備えた重心の移動。缶を蹴るためにねらいを定めスピードを落としたときの、上体を支える腹筋の働き。蹴るときのバランス。サッカー選手のように身体を入れるディフェンス。急停止の判断力とできる身体。
　さくら組、もも組の楽しそうなお手本の缶蹴りがあって、この姿が見られたのだろう。

やってみることの大切さ!!

増永彩希

　惑星を球体で作っている子ども達。図鑑を見ている時、
「見て！海王星にも輪っかがある」
と一人の子が気付きました。
土星の時は輪っかがあることを知っていて、はっきりと見えていたのでダンボールで作りました。
しかし、海王星は白っぽくモヤがかかったような感じ。
子ども達はそれを見て「透明のやつ（ビニール）がいいんじゃない」とイメージしたようです。
そして素材置き場からビニールを持ってきて気付きます。
「なんかこれペラペラしてるね」
「これだとピンってならないかも。どうする？」

　材料はビニールがいい。ダンボールにこのビニールを貼ってもダンボールの色が見えてそれではだめ。色々考えてみましたが他の方法を思いつきませんでした。そこで「やってみよう」と自分達の思いついた方法でやってみることにしたようです。
友達と協力しながら輪っかを作る事ができ海王星につけてみましたが、子ども達が予想した通りだらんと垂れ下がって綺麗な輪っかにはなりませんでした。
そして次の日、１回目の輪っか作りで、固さが必要だと感じた様子。
朝の集まりでもみんなに問いかけてみて、色々なアイディアをもらい

①（ペラペラの部分を）紐で吊るす
②透明の固いもので作る
③ビニールを何枚も重ねる
④透明なものを、丸めて横に繋げる
と4つの提案が出てきました。その提案を参考に材料を選びました。
まず梱包緩衝材（プチプチ）を手にとります。それから、半透明の板を見つけ「これ固いよ」と目が輝きました。
そこで『この板にプチプチをつけてみよう』と考えました。
この時も「うまくいくかな？」という半信半疑な状態でしたが「やってみよう」と製作へと向かっていました。上手くいってもいかなくても実際にやってみることで着実な知識へと繋がっていくような気がします。また、上手くいかなくてもやってみよう精神が感じられその心意気が、成功や色んなことに繋がっていくような気がします♪